

第二一三回ペン川柳会

令和四年二月二十二日

お題 「温・温む」

■ 西川 (酔雅)
すいが

肌に替え湯たんぽ抱いて温む夜
温むのに合せて暇深くたれ

■ 稲宮 (井波)
いなみ

もうい、かい温もり恋し赤提灯
温暖化ツバルを救え地球人

■ 山縣 (安兵衛)
やすべえ

独り身で酒を温む人恋し
温暖化なのに大雪足取られ

■ 細谷 (損得)
そんとく

ぬる温ま湯に浸りきってる日本人
温暖化取れる魚も大変化

■ 塚田 (拿々)
だだ

惚ばれる母の温もり父の愛
朝晩に体温計を睨みつけ

■ 三春 (火酒)
ウオツカ

ぬるかん温爛を風呂に持ち込む大寒波
坊ちゃんは温室育ちのどてかぼちや

■ 八木 (明迷)
めいめい

温情と非難の果ての第4位
温暖化寒い朝にはまあいつか

■ 浜田 (我々好)

ウイスキー

ぬるまゆ
人肌の温み忘れたパンデミック
微温湯で飲む爛冷まし議会の宴

■ 大野 (だし)

温む水待望の別府大寒波
水温む花粉と洪水の前兆さ

■ 松谷 (零門)

れいもん

いい湯だな温みウトウト溺れかけ
いつでもできる温泉宿で宴会を

世話人 塚田 實(拿々)

だだ

■ 曾山 (酪帝)

めいてい

温暖化臍のゴマささえ発芽する
温泉と貧乏ゆすり馴染まない

■ 安藤 (晃二)

てるつぐ

混浴に鼻孔モグモグ温熱泉
極楽ぞ温き湯舟の脊柱管